

1 はじめに

宇和島支部では、今年度の夏季研修会を、愛媛県総合教育センター情報教育室の出前講座で行った。内容は「GIGAスクール構想下でのICTを活用した授業改善・学級経営」及び「著作権」についてである。2年ぶりに各校主任が一堂に会する研修会を計画していたが、直前にオンラインでの開催が決定した。

2 研修内容

(1) GIGAスクール構想下でのICTを活用した授業改善・学級経営

まず、最近の「教育の情報化」の動きについて研修した。

「情報活用能力の育成」の視点で個人の基礎的な力に関する分析を共有した。日頃の研修では、実際の端末の操作のスキルについての研修が多い中、このように児童が情報教育発展の恩恵を十分に受けた状態を想起しながら研修できたことに強い手ごたえを感じた。

併せて、情報化の波のなかで児童が晒される危険についての認識も避けては通れないものであることを実感した。

クラウドサービスを活用した実践のアウトラインについても学ぶことができた。これは、現在行われている活用の大部分を占めつつあるものではなかろうか。「クラウドサービスによる授業実践サイクル」は今後も長く実践の方向を示すモデルになるように思えた。

巨視的な観点に加えて、全国様々な学校現場での研究の成果を数多く研修させていただいた。

実際の4月から3月までの学級経営の中で、「学級経営の3領域を意識した情報教育」(学級経営の教科書 2017 白松 賢)は、普遍性を強く感じた。実際、ICTの活用が積極的に行われ、成果を上げつつある学級においては自然とこのスタイルが確立しているように思えた。ICTの主体的な活用が増え、ICT操作スキル・ルールについての学習の割合は減少、一方で情報モラルについての比重は一年を通じて変わらない、ということである。

ルール作りについてはかなり熱の入った指導を受け、印象に残った。「議論を踏まえているかどうかルール作りの最初のポイント」(独立行政法人教職員支援機構 オンライン講座校内研修シリーズ No.82「情報社会に主体的に参画する態度を育む指導」塩田)は示唆に富む言葉であった。さらに高次元な「変化への対応」についてヒントを投げかけられている気がした。

(2) 著作権について

授業改善・教材研究にあたっての著作権の重要性について改めて認識を深めることができた。

特に「教育のDX(デジタルトランスフォーメーション、デジタル技術による変革)を加速する著作権制度」(文化庁2021)のなかで「Withコロナ、Postコロナ時代において、優れたコンテンツに基づくオンライン教育を推進する上で本制度はますます重要になる」「文部科学省が推進するGIGAスクール構想の基礎となる仕組みである」とし、さらに「教育現場が著作物利用を委縮せずにICT教育を進めていくためにも設置者において支払い義務を適切に果たすことが大切」と述べられていることは新鮮であった。

3 成果と課題

授業改善・教材研究にあたっての著作権の重要性について改めて認識を深めることができた。また、オンライン開催によって参加者の負担を減らすことができる面も見出された。

ある教育分野での研究成果のなかで、「1人の100歩よりも100人の1歩」「しかし10人の10歩も大切」という言葉に出会ったことがある。今後さらに支部全体で、今回の研修の基幹を繰り返し共有する視点をもって、さらにICTを活用した授業改善を立体的に推し進めていきたい。